

キャラクター名
ファレーナ・ヴェレーオ

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス モルフェウス		ワークス	UGNチルドレンD	カヴァー	優等生
	オプション		年齢	15歳	性別	女性
覚醒	命令	衝動	嫌悪	初期侵食率	30	%
出自	名家の生まれ	経験	セレブ	邂逅	忠誠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1		0			1	行動値	5
感覚	2		0			2	(非装備時)	5
精神	1		0			1	戦闘移動	10
社会	4	1	0			5	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	2		調達	4	
運転:			芸術:			知識:礼儀作法	1		情報:アカデミア	1	
運転:			芸術:			知識:紅茶	2		情報:UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
拳銃		0				護身用にもならない糞以下の代物

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
Sランク: サポーター	専門家
オールカインズ	コネ: アッシュレドリック
パディムーヴ	
情報収集チーム	
嗜好きの友人	
学園通の友人	
要人への借り	
UGN幹部	
携帯電話	
フォーマル	
カジュアル	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D: 諜報員	P 有為	N 不安		
アッシュ・レドリック[RE][PO]	P 誠意	N 不信任		
渋谷千歌[PO]	P 感服	N 恥辱		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 20 残り財産P: 20

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
アクセラ	5	1	セットアップ					
効果:	対象の行動値を+SL*2							
ラピッドファクトリー	2	3	セットアップ	至近	範囲(選択)		1/2SL	
効果:	セットアップの対象を範囲(選択)に							
力の霊水	3	4	オート				80%	
効果:	ダメージダイス+Lv個							
砂の加護	3	3	オート					
効果:	Lv+1個ダイスを増やす							
高速練成	2	3	メジャー					
効果:								
狂戦士	1	5	メジャー				80%	
効果:	メジャーの判定のc値-1(下限6)判定のダイス+[LV×2]個							
戦乙女の導き	2	2	メジャー					
効果:	メジャーダイス+Lv個増加。ダメージ+5							
奇跡の滴	1	6	オート				100%	
効果:								
活性の霧	5	3	セットアップ					
効果:	ラウンド間、対象の攻撃力を+SL*3							
サポートデバイス: 肉体	4	6						
効果:								
アウトレイジ	1							
効果:								
竹馬の友	1							
効果:								
文書偽造	1							
効果:								

「皆さん、ご無事で何よりです。少しは力になれましたか？」
「任務も約束も、破ったことが無いのが私の数少ない美点ですから」
(……ちとキナクさいな。別の奴にウラとってからの方がいいなこれは……)

好きなもの: 紅茶、かわいい服、有能な奴
嫌いなもの: モルトビネガー、媚び諂うやつ
苦手なもの: 悪臭、騒音、天然な奴
趣味: お茶会、日記、ショッピング
所属: 茶道部(紅茶を飲む部活だと素で勘違いしていたが、結局今も顔を出している)

中学3年生のUGNチルドレン。クラスでは打ち解けているどころか、ちょっとした人気者となっている。
パッと見では物腰が柔らかくも無機質さを感じさせない、いい意味でチルドレンらしくない温かみのある人間のように思える。
……それはあくまで表の姿。なにせ、本当の彼女は何を隠そうUGNタカ派、アッシュクレリックの直属の諜報員。
彼女がアカデミアにいることも、そもそもがUGタカ派がアカデミアの運営に干渉できるような弱みを見つける為だ。

彼女の本性は他者を騙すことにめ切り捨てる事にも躊躇いのない、悪辣さを持つ、冷酷な人間だ。
何時も笑みを崩さない人間が、その内側で使える人間とそうでない人間を見極めていたというわけである。
……それは同時に、潜入という仕事において、その居場所への未練を持たないようにする自己防衛手段でもあるのだが。

そんな彼女の能力は周囲に鱗粉を散布し、周囲に影響を与えていく鱗粉使い。
味方がその虹色に煌めく鱗粉を吸えば、痛みを忘れ力が漲り、武器に鱗粉が付着すれば切れ味を増すことになるだろう。
……こう書けばわかるだろうが、この能力は支援系の能力であり、潜入や諜報には決して向いていない。

